

「ホットペッパーグルメ外食総研」によるタウン別・飲食動向調査 最新！ 外食&中食タウンランキング【首都圏版】

外食市場規模の第1位は「新宿（代々木）」、
中食市場規模の第1位は「池袋・大塚」
家族で飲食するのは「越谷レイクタウン」、一人利用では「荻窪」

株式会社リクルートライフスタイル(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野 健)の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」 (<https://www.hotpepper.jp/ggs/>) では、首都圏・東海圏・関西圏の男女約1万人を対象に毎月実施している「外食市場調査」の結果を元に、2018年度のタウン別ランキングを発表します。

2018年度外食&中食タウンランキング【首都圏版】

■ 2018年度外食市場規模ランキングトップ10

タウン名	外食市場規模	前回順位
1位 新宿（代々木）★	1572億円	1位
2位 東京・日本橋（大手町・人形町）★	1119億円	2位
3位 銀座・有楽町★	1078億円	3位
4位 新橋・浜松町（虎ノ門）★	952億円	5位
5位 池袋・大塚★	927億円	4位
6位 渋谷・表参道（原宿）★	792億円	6位
7位 神田・秋葉原・御茶ノ水・神保町★	649億円	7位
8位 恵比寿・目黒（中目黒）★	595億円	8位
9位 上野・御徒町★	570億円	10位
10位 横浜駅周辺	567億円	9位

■ 2018年度中食市場規模ランキングトップ10

タウン名	中食市場規模	前回順位
1位 池袋・大塚★	240億円	1位
2位 新宿（代々木）★	197億円	2位
3位 東京・日本橋（大手町・人形町）★	160億円	3位
4位 大宮・さいたま新都心◎	142億円	4位
5位 千葉（稲毛）◎	132億円	6位
6位 町田・相模大野◎	125億円	7位
7位 横浜駅周辺	124億円	5位
8位 浦和◎	111億円	8位
8位 川口・蕨◎	111億円	9位
10位 吉祥寺・三鷹（武蔵境・東小金井）◎	106億円	10位

※首都圏：70タウンを設定

※★：半径1kmのタウン、無印：半径2kmのタウン、◎：半径4kmのタウン

※今年度、名称が変わったタウンがあるが、タウンに含まれる駅は変わっていない。タウンの名称は、外食件数が一定より上位の駅名を含める形で表示している。

「ホットペッパーグルメ外食総研」上席研究員・稲垣 昌宏が首都圏の外食動向を解説！



「ホットペッパーグルメ外食総研」
上席研究員 稲垣 昌宏

職場の飲み会が減り、居住地近辺での外食に勢い

外食数の多い駅をコア駅として首都圏で70タウンを設定、各タウンの特徴をランキング化しました。外食市場規模では「新宿（代々木）」、中食市場規模では「池袋・大塚」がそれぞれ6年連続の1位。外食には主に①居住地近辺 ②通勤、通学先やターミナル駅 ③お出かけ先、の3つの実施場所がありますが、近年は職場の飲み会が減り、家族での外食が増える傾向で、①居住地近辺、の外食が注目されます。家族・親族での利用が多い「越谷レイクタウン」や一人利用が多い「荻窪（西荻窪・阿佐ヶ谷）」が、こうしたライフスタイルの変化を象徴するタウンになっています。

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press>

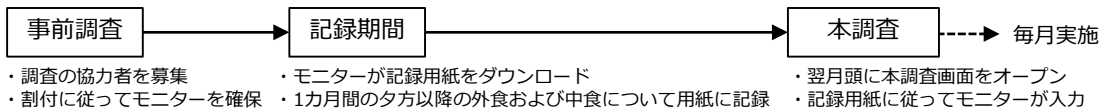
調査概要

- **調査目的** 首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の夕食および中食の市場規模を把握することを目的に実施。また、主要タウン別の市場規模や、性年代別の夕食・中食の実態を明らかにすることも目的とした。
- **調査対象** 首都圏の場合、圏域中心部からの鉄道距離が、おおむね90分圏の市区町村に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

調査対象	首都圏
調査対象者の居住地の範囲	・東京都（一部除外） ・神奈川県（一部除外） ・千葉県（県東・県南の一部除外） ・埼玉県（県西の一部除外） ・茨城県の一部

- **調査方法** インターネットによる調査

● 調査の流れ



- **割付の設定** 本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、性別2区分×年代別5区分（20代/30代/40代/50代/60代）×地域13区分＝130区分で割付をおこなって回収した。
- **集計方法** 本調査結果は、H28人口推計に基づいて性別2区分×年代別5区分×地域13区分＝130区分でウェイトバック集計をおこなっている。また、年間集計にあたっては、個人単位集計の場合、毎月同数の人に調査した形に補正して集計している。夕食単位集計、中食単位集計の場合、毎月の夕食単位、中食単位のウェイトバック後のサンプルを合算して年間集計をおこなっている。

※前年度調査で使用した基準人口に県×性年代別のH27国勢調査人口→H28人口推計の増減率をあてて計算。

※2017年度の基準人口：H27国勢調査人口 ※基準人口の前年度比 首都圏：+0.4%

● サンプル数

本調査 （3圏域計）	実施期間	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2019年	2019年	2019年	2018年 年度年間	2017年 年度年間	
		4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度			
	18/5/1 ～5/10	18/6/1 ～6/6	18/7/2 ～7/10	18/8/1 ～8/7	18/8/31 ～9/11	18/10/1 ～10/10	18/11/1 ～11/7	18/11/3 0～12/7	19/1/7 ～1/16	19/2/1 ～2/7	19/3/1 ～3/7	19/4/1 ～4/9				
	配信数(件)	13,161	13,345	13,256	12,349	12,206	12,193	13,347	12,309	12,368	13,171	13,098	15,343			
	回収数(件)	10,347	10,410	10,422	9,084	9,906	9,592	9,915	9,743	9,675	10,423	10,131	12,089			
	回収率	78.6%	78.0%	78.6%	73.6%	81.2%	78.7%	74.3%	79.2%	78.2%	79.1%	77.3%	78.8%			
	有効回答数(件)	10,268	10,337	10,343	8,993	9,849	9,521	9,847	9,681	9,607	10,363	10,050	11,999			
集計数	個人単位 (居住圏域)	首都圏(件)	5,861	5,900	5,903	5,133	5,622	5,434	5,620	5,526	5,483	5,915	5,736	6,849	5,749	5,743

※集計サンプル数はウェイトバックによる補正後の件数 ※年間集計のサンプル数は、毎月同数の人に調査した形に補正後の件数

※個人単位の年間集計のサンプル数は、毎月同数の人に調査した形に補正後の件数

本調査における定義・設定等

● 本調査での「夕食」は、夕方以降の食事について、お家で食事した場合を対象

- ・飲酒のみ、喫茶のみの場合も含まれる。
- ・夕方以降、複数回夕食した場合、1日あたり2回まで（2軒目まで）の夕食を含んでいる。

● 本調査での「中食」は、夕方以降の食事について、外で買ったものを食べた、出前や宅配を利用して食べた場合を対象

- ・食事の一部（おかずのみ等）を買ってきて食べた場合も含まれる。
- ・夕方以降、複数回中食した場合、1日あたり2回まで（購入金額の上位2位まで）の中食を含んでいる。

● 対象範囲の設定

- ・消費地の範囲は、圏域の居住者が圏域の対象都県内でおこなった夕食や中食（ただし購入した場所）を対象としており、圏域外（圏域外の都道府県や海外）でおこなった夕食や中食は含んでいない。ただし、圏域内への旅行・出張は含まれる。

対象範囲	首都圏
消費地の対象範囲	・東京都 ・神奈川県 ・千葉県 ・埼玉県 ・茨城県

● タウンの設定

- ・昨年度1年間の調査結果から、圏域ごとに夕食件数の多い上位100駅を中心として、東京都山手線内は半径1km、その他の都心部（東京都区部、横浜市・川崎市）は半径2km、周辺部は半径4kmの範囲に含まれる駅を合わせて、1つのタウンとして設定した。
- ・複数の円が重なる位置にある駅や円のごく周辺にある駅はより関係性が強いコア駅のタウンに振り分け、各タウンの範囲は重複しない。
- ・首都圏は、70タウンが設定された。 <新>は新しく設定されたタウン。
今年度、名称が変わったタウンがあるが、タウンに含まれる駅は変わっていない。ただし、直近1年間に新設された駅は、該当するタウンがあれば追加している。★：半径1kmのタウン、無印：半径2kmのタウン、◎：半径4kmのタウン

●半径1kmのタウン	●半径1kmのタウン(続き)	●半径2kmのタウン(続き)	●半径4kmのタウン(続き)	●半径4kmのタウン(続き)
1 新宿(代々木)★	16 四ツ谷・赤坂見附・市ヶ谷★	38 自由が丘	32 多摩センター◎	59 海浜幕張◎
2 渋谷・表参道(原宿)★	17 六本木(赤坂・青山一丁目)★	39 大井町・大森	33 調布駅周辺◎	60 千葉(稲毛)◎
3 恵比寿・目黒(中目黒)★	●半径2kmのタウン	40 蒲田	34 立川駅周辺◎	61 松戸(金町)◎
4 品川・田町★	18 豊洲・門前仲町(東陽町)	41 横浜駅周辺	35 八王子駅周辺◎	62 柏駅周辺◎
5 大崎・五反田★	19 西葛西	42 関内・桜木町(みなとみらい)	36 町田・相模大野◎	63 大宮・さいたま新都心◎
6 新橋・浜松町(虎ノ門)★	20 錦糸町(亀戸・両国)	43 川崎駅周辺	49 大和駅周辺◎	64 浦和◎
7 銀座・有楽町★	21 浅草(押上)	44 新横浜	50 橋本◎	65 川口・蕨◎
8 東京・日本橋(大手町・人形町)★	22 北千住	45 武蔵小杉	51 藤沢・辻堂◎	66 志木(朝霞台・和光市)◎
9 神田・秋葉原・御茶ノ水・神保町★	23 亀有(綾瀬)	46 二子玉川・溝の口	52 海老名・本厚木◎	67 越谷レイクタウン(越谷)◎
10 上野・御徒町★	24 小岩・新小岩	47 たまプラーザ(あざみ野)	53 大船◎	68 川越駅周辺◎
11 日暮里(西日暮里)★	25 赤羽	48 上大岡<新>	54 平塚・茅ヶ崎◎	69 所沢(東村山・新秋津)◎
12 巣鴨(駒込)★	26 練馬	●半径4kmのタウン	55 本八幡(市川)◎	70 上尾駅周辺◎
13 池袋・大塚★	27 中野・高円寺(東中野)	29 吉祥寺・三鷹(武蔵境・東小金井)◎	56 船橋(西船橋)◎	
14 高田馬場★	28 荻窪(西荻窪・阿佐ヶ谷)	30 国分寺(武蔵小金井・西国分寺)◎	57 舞浜◎	
15 飯田橋・水道橋★	37 下北沢	31 府中駅周辺◎	58 津田沼◎	

2018年度外食タウンランキングトップ5【首都圏版】

■外食市場規模の前年伸び率が高いタウン

順位	タウン名	外食市場規模(億円)	前年度比
1位	本八幡(市川)◎	128	123.6%
2位	上尾駅周辺◎	99	122.1%
3位	自由が丘	140	117.6%
4位	船橋(西船橋)◎	206	116.5%
5位	調布駅周辺◎	139	116.0%

外食市場規模の伸び率トップは「本八幡(市川)」で、外食単価と延べ外食回数とともに10%以上伸びたことで前年比2割以上の市場規模拡大となった。東京外環自動車道の開通でアクセスが良くなったことなどから住宅地としての人気上昇しており、人口増加が外食回数の増加につながり、外食に比較的金をかける層が流入して単価も増加しているのではないかと考えられる。居酒屋、焼肉・ステーキ業態などで市場規模が大きく伸びた。

■外食単価が高いタウン

順位	タウン名	外食単価(円)	前年度比	前回順位
1位	六本木(赤坂・青山一丁目)★	5,093	104.3%	1位
2位	銀座・有楽町★	4,802	101.4%	2位
3位	新橋・浜松町(虎ノ門)★	4,178	104.7%	3位
4位	恵比寿・目黒(中目黒)★	4,011	103.5%	5位
5位	四ツ谷・赤坂見附・市ヶ谷★	3,913	102.6%	6位

外食単価の高いタウンは2013年の調査開始以来、6年連続して「六本木(赤坂・青山一丁目)」、2位も6年連続「銀座・有楽町」であった。「六本木(赤坂・青山一丁目)」は過去一度も単価4,500円を割っておらず、2018年度は初の5,000円台を記録した。単価が比較的高い「バー、バル、ワインバー、ビアホール、パブ」業態の利用シェアが全タウン中1位であること等が平均単価アップに寄与していると考えられる。

■外食単価が低いタウン

順位	タウン名	外食単価(円)	前年度比	前回順位
1位	越谷レイクタウン(越谷)◎	1,815	97.3%	6位
2位	多摩センター◎	1,828	96.7%	8位
3位	橋本◎	1,842	94.5%	9位
4位	大和駅周辺◎	1,877	101.9%	4位
5位	上尾駅周辺◎	1,907	103.7%	3位

外食単価の低さは、飲酒の有無との相関が強く、飲酒率の低さでも「越谷レイクタウン」は3位、「多摩センター」は4位、「橋本」は2位等となっている。「越谷レイクタウン」は大規模駐車場を有する巨大ショッピングモールを中心に外食数を伸ばしてきたタウン。休日に車でショッピングモールに出かけての外食が多いため、飲酒を伴うことが少なく、単価が低く抑えられていると考えられる。

■一人の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	荻窪(西荻窪・阿佐ヶ谷)	35.8%	35.3%	3位
2位	中野・高円寺(東中野)	33.4%	34.7%	5位
3位	小岩・新小岩	33.1%	35.0%	4位
4位	練馬	30.9%	35.8%	2位
5位	西葛西	30.8%	24.3%	27位
5位	高田馬場★	30.8%	29.3%	10位

一人での外食が多いトップ2はともに中央線沿線の「荻窪(西荻窪・阿佐ヶ谷)」「中野・高円寺(東中野)」という隣り合ったタウンであった。両タウンとも、近年テレビなどで若手芸能人・お笑い芸人等が東京に上京して最初に住む街としてのイメージも定番になりつつあり、物価が比較的安く、ひとり暮らしがしやすい街として定着してきた。このため、一人暮らしの男性などの外食利用が順位を押し上げた可能性がありそうだ。

■カップルの利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	恵比寿・目黒(中目黒)★	13.5%	11.5%	4位
2位	下北沢	13.3%	15.0%	1位
3位	上野・御徒町★	11.5%	9.5%	11位
4位	船橋(西船橋)◎	11.4%	8.5%	17位
4位	渋谷・表参道(原宿)★	11.4%	10.5%	5位

※カップル:外食の相手が「恋人や異性の相手と2人で」を集計

外食デートで利用されるタウンには、今年順位変動があった。2016・2017年度で1位だった「下北沢」が2位に、替わって「恵比寿・目黒(中目黒)」が、前年度4位から2015年以來の1位に返り咲いた。3位には「上野・御徒町」が前年度11位から急上昇。上野動物園のパンダ人気や国立科学博物館や複数ある美術館の展示がコストパフォーマンスの良いデートに向いているとあって、再注目を集めている。

2018年度外食タウンランキングトップ5【首都圏版】

■家族・親族との利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	越谷レイクタウン（越谷）◎	41.4%	37.4%	6位
2位	たまプラーザ（あざみ野）	40.2%	46.3%	1位
3位	柏駅周辺◎	37.6%	37.4%	6位
4位	多摩センター◎	36.5%	33.5%	11位
5位	志木（朝霞台・和光市）◎	35.9%	34.3%	9位

郊外の住宅地が上位を占めた。1位の「越谷レイクタウン」は「ファミリーレストラン、回転すし等」利用のシェアが高いタウンでも1位になっており、「多摩センター」も同6位、「志木（朝霞台・和光市）」も同5位。大規模ショッピングモールを中心に市街地開発の進んだエリアでは、休日にショッピングモールで外食をすることが、家族の手軽なレジャーになっている様子がよく分かるランキングとなっている。

■地元住民の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	小岩・新小岩	76.9%	79.8%	1位
2位	練馬	71.9%	68.9%	3位
3位	蒲田	68.7%	71.0%	2位
4位	西葛西	66.6%	58.5%	8位
5位	平塚・茅ヶ崎◎	64.3%	63.0%	5位

在住者による飲食シェアの多いタウン1位は「小岩・新小岩」。タウンのコア駅の小岩駅は江戸川区、新小岩駅は葛飾区で、この2区の居住者による飲食が76.9%を占める。同タウンには、縁辺から通勤・通学してくるような大企業や大工場、マンモス校などが少なく、「牛丼、カレー等、一品もの専売業態」利用のシェアが1位等、日常的な外食店が多いことから、地元に住んでいる人の飲食比率が高くなっていると考えられる。

※地元住民が利用するシェア：延べ外食回数のうち、当該タウンのコア駅（外食数が一定以上上位の駅）が所在する市区町村と同じ市区町村に住む人によっておこなわれた外食回数の割合

■飲酒を伴う外食のシェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	新橋・浜松町（虎ノ門）★	75.6%	72.3%	1位
2位	六本木（赤坂・青山一丁目）★	69.6%	68.2%	2位
3位	恵比寿・目黒（中目黒）★	68.3%	64.7%	5位
4位	銀座・有楽町★	67.3%	67.5%	3位
5位	四ツ谷・赤坂見附・市ヶ谷★	66.6%	67.1%	4位

いわゆる“飲み屋街”というところを想像しますか？ という問いに対する回答となるのがこちらのランキング。1位「新橋・浜松町（虎ノ門）」は飲酒率のデータを取り始めた2015年度から4年連続の1位。飲酒を伴う外食のシェアが唯一7割を超えているタウンで、しかもこの4年間で飲酒率は70.9%から75.6%へと、上昇し続けている。まさに押しも押されぬ飲酒の街と言って良いだろう。

■「焼肉、ステーキ、ハンバーグ等の専門店」の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	亀有（綾瀬）	12.1%	10.9%	1位
2位	川口・蕨◎	10.6%	10.9%	1位
3位	大和駅周辺◎	10.3%	8.3%	10位
4位	上尾駅周辺◎	9.9%	8.9%	5位
5位	多摩センター◎	9.8%	8.2%	12位

意外なタウンが上位に並んでいるのがこちらのランキング。1位は「亀有（綾瀬）」、2位は昨年同率1位だった「川口・蕨」が、変わらず上位にランクイン。亀有は葛飾区、綾瀬は足立区と2区にまたがるが、ともに駅近に多数の焼肉、ホルモン焼きの店舗があり、競い合うことで平均的な店のレベルが上がり、高ランクを維持しているのではないかと思われる。

■インターネット予約のシェアが高いタウン

順位	タウン名	インターネット予約シェア	前回値	前回順位
1位	渋谷・表参道（原宿）★	15.9%	12.1%	3位
2位	銀座・有楽町★	15.3%	13.6%	2位
3位	品川・田町★	14.0%	11.7%	5位
4位	東京・日本橋（大手町・人形町）★	13.9%	10.9%	6位
5位	新宿（代々木）★	13.6%	12.0%	4位

インターネット予約の進んでいるタウン1位は「渋谷・表参道（原宿）」。首都圏平均8.7%の倍近い15.9%の予約シェアだった。そもそも予約しての飲食が多いタウン（首都圏平均26.3%に対し該当タウンは38.1%）だが、特に男性20代、女性30代・50代のインターネット予約が多く、フレンチ・イタリアン料理店、焼肉、ステーキ、ハンバーグ等の専門店、カラオケボックス等の予約が盛んだ。